

AD ALTIORA SEMPER

神戸市外国語大学学術情報センターだより 第42号

図書館の強みとありがたみ

林 範彦

学

旧来型の本は紙からなる。ゆえにかさばる。そして重い。遠出するのに何冊もかばんに仕込もうものなら、利き腕が痛くなって仕方ない。昨今流行りの電子書籍に専門書が多数登録されているなら、腕を痛めなくてすむのにと思いながらも、私の専門は東南アジア大陸部の少数民族の言語学なので、望むべくもない。

昨年度、幸運なことに在外研究の機会を大学から与えていただいた。タイ国立のマヒドン大学アジア言語文化研究所(通称 RILCA)に籍を置きながら、東南アジア大陸部の少数民族の村で言語調査する仕事を行ってきた。大して読めないだろうに、こういう時小心者の私は、現地調査に発つ前に「先達の研究者の資料に当たらなければならないのでは?」「研究所での空き時間に読むべきものはこれとこれ…」などと考え、ダンボールに詰め込むのである。合計4箱も送ってしまった。本

当は書棚ごと詰め込みたいくらい気持ちを抑えた結果なのでよしとすべきかもしれない。

こうやって神戸から送った山盛りの本を受け入れ先の研究室のデスクに並べるだけで悦に入るわけであるが、それでもまだ図書館にお世話になる必要がある。

海

RILCA には2つの library がある。1つは主に東南アジア各国で発行された語学教科書の部類が所蔵されている。もう1つはより一般的な言語学や社会学などの専門書および専門雑誌類、そしてマヒドン大学に提出された学位論文を所蔵する。私は主に後者の library を利用させていただいた。

私が非常にありがたく感じたのは専門雑誌と学位論文である。現在人文科学の専門雑誌も徐々に e-journal 化が進み、出版された直後にネット検索が行え、PDF がダウンロード可能な場合も増えてきている。しかし、一方で最新号についてはまだ紙ベースで読まなければならないものも多い。それに昨今大学が編集事務局を引き受けてきたのを民間の学術出版社へ編集業務を移管して、さらに価格が高額化するケースも欧米系の雑誌では現れている。こうなると専門雑誌を揃えてくれている library はすこぶる助かる。

そして、日本でアクセスしにくいマヒドン大学の学位論文が簡単に閲覧できるのはとてもありがたかった。最近は日本でも学位論文も PDF でダウンロード可能な大学が増えてきているが、まだ



マヒドン大学講堂 Prince Mahidol Hall

少ないだろう。普通は紙の製本で1冊のみ保管されている。RILCAの場合は同じものが3冊保管されているので、1冊借りだしても(貸出可!)、まだ2冊は館内で読めるというサービスぶりである。この点は日本の大学図書館では考えにくい。

マヒドン大学で先進的だと感じたサービスは、ネット図書館である。RILCAでも読みたいテーマがあるときにはPCで蔵書検索システムを利用する。しかし、そこに表示される検索結果には実際に紙の蔵書の位置を示すだけでなく、「紙の蔵書はないものの、マヒドン大学内でのネット環境上で読める電子図書」も表示されるのである。紙の本に慣れていない人間にとってはいささか不便な部分もある。一方で、このサービスでは読みたい部分を検索でき、貸出や返却の手続きが不要であるなどの利点もある。おまけに同時に複数の人が利用できるメリットもある。これは学内のネット環境につながっている状態であれば館外でも使えるのである。

无

RILCAのlibraryは大変使い勝手が良い。ただ当然ながらすべての図書を備えているわけではない。少数言語の具体的な資料類や、関連学会で発表された資料などはないものも多い。そこでそのような通常見づかりにくい資料を保持しているのがタイ北部チェンマイ市にあるPayap大学の言語学研究所のlibraryである。



Payap 大学言語学研究所

このlibraryもRILCAのそれと同じく、規模は大きくない。ただし、非常にマイナーな言語資料や研究資料を多数持っている。「(アク語やセーク語の資料を見ることができたのは大変助かった」などと書いても多くの人に理解されないとは思いますが・・・) この研究所はキリスト教系の団体が運営を支えている。東南アジア大陸部の少数民族の言語を研究し、それをもとに、少数民族用の教材を作成する。そして最終的には聖書の少数言語への翻訳を目指している。学外者の閲覧はもちろん、チェンマイ市在住の人であれば、所定の手続きの上、貸出もしてくれる。私のような非キリスト教徒の研究者にも心よく資料を閲覧させてくれるのはありがたい。今回の在外研究期間では2度訪問し、手に入りにくい学会の発表資料やある少数言語の古い語彙集などを閲覧させていただいた。持つべきものは、やはりよい友とよい図書館(の情報)である。



タイ・メーホンソン県でラフ族の方と

涯

以上、長々とタイの2つの機関の図書館について私の経験を開陳したが、大事なことは図書館には個性があるということだろう。それぞれの図書館にはそれぞれの強みがある。上の2つの図書館は東南アジアの言語と文化に非常に強い。しかし、他の方面ではほとんど蔵書を有しないのである。翻って、我が外大図書館は世界の語学・文

学や文化研究に強い上に、多方面の信頼に足る図書や雑誌が収められている。テーマに行き詰まったとき、ふと違う分野の図書を覗きたくなったとき、外大図書館は実に心強い。巷にあふれる膨大な図書の中から、プロのスタッフが読むべき一冊を選んで、書架に置いてくれているのだから。

学海无涯苦作舟。学びの海は果てしない。そして、何かを極めるにはその大海にてもがきながら

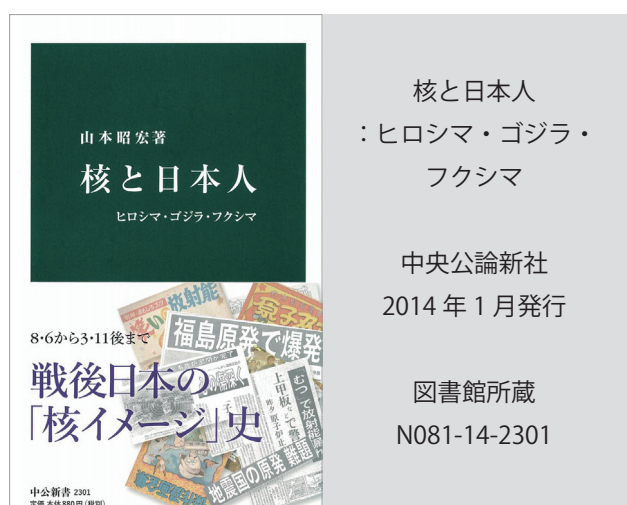
船をこぐよりほかはない。私はこれからもフィールドワークを手法とし、現場を歩き続けるだろう。そのとき、現場に迫り来る荒波を乗り切るための私にとっての糧は、きっと相変わらず書物であり、図書館であるにちがいない。

(はやし のりひこ 総合文化准教授)

著書紹介「核と日本人：ヒロシマ・ゴジラ・フクシマ」

「トラック野郎」と原発

山本 昭宏



本年は戦後70年の節目にあたる。そのため、マス・メディアは戦争の記憶に関する報道に熱心だ。核に関して言うならば、存命の被爆者の証言を掲載するなどの試みが行われると同時に、NPT再検討会議の決裂や原発の再稼働をめぐる議論も高まっている。このように、核の問題は、現代日本のマス・メディアで重要な公共の課題として扱われ、私たちもそれを当然だと見なしている。

しかし、実際のところはどうかのだろう？ 私

たちはどの程度の関心を核に持っているのだろうか。例えば、核の問題について人に問われた際に、「そうですね、由々しき問題ですね」というような答え方をする人は多いだろう。それが適切な答えだろうと「空気を読んで」そう答える人も多いのではないか。いや、それならばまだ良いほうで、何の関心も抱かない人も増えているのかもしれない。

そのことを嘆いたり、怒ったりするつもりはない。1945年の8月は遠く、世界に配備されている核兵器は人目につかない。電力源を想像することは困難だし、原発は人里離れた場所にある。興味や関心を持ちにくく、仮に持ったとしてもそれを持続させるのが難しいのは、ある意味では当然だろう。それに、他人から無理やりに問題を押し付けられても、当人には魅力的に映らない。なんとか関心を持ってもらおうと、2015年1月に『核と日本人』を上梓したが、あまり手にとっていないようだ。

そこで、遠回りかもしれないが、拙著『核と日本人』には書かなかったある映画の話をしてみた

い。その映画は、1977年に公開された『トラック野郎・度胸一番星』（鈴木則文監督、東映）である。メインに菅原文太と愛川欽也を据えた「トラック野郎」シリーズの第5作だ。

この映画には、「JAWS 団」という「ならず者集団」が登場する。そのリーダーの男（千葉真一が演じている）の背景が興味深い。彼の故郷の村は原発誘致を決めていた。それに反対した彼は、「カネで村を売った」人たちを怨み、村を出たのだった。そして、原発着工の日、彼は村に舞い戻る。自分が生まれた場所を他人に壊させてなるものかと、自らの手で村を消すために戻ってきたのだ。彼はトラックに乗り込み、涙を流しながら自らの村を壊してまわる。

ここまではわかるのだが、その先の場面で、鑑賞者はやや奇妙な思いにとらわれることになる。トラックは、原発賛成派の民家ではなく、原発反対派の民家に突っ込むのである。そして、原発反対の看板が踏み潰される場面が、画面いっぱいに映し出されるのだ。千葉真一演じるこの男は、原発に反対していたのではなかったか？ なぜ真っ先に反対派の民家をつぶしたのだろうか？

推進・反対を共に破壊する彼の姿を、たんなる自暴自棄と呼ぶのは容易いが、それだけでは片付けられない何かが、この場面にはある。その後、物語が展開してある場面に至ると、その「何か」の存在に気付かされる。それは次のような場面だ。

集まって故郷自慢をしている「トラック野郎」たちに、千葉真一が率いる「JAWS 団」が近づいていく。それに気付いた菅原文太演じる主人公が

「お前の故郷（くに）はどこだっけな？」と訪ねると、「JAWS 団」の団員たちは口々に答える。

「俺は筑豊。そんなもの山と一緒になくなっちゃまったよ！」

「俺は沖縄だ。飛行場の冷てえコンクリートの下で眠ってるよ！」

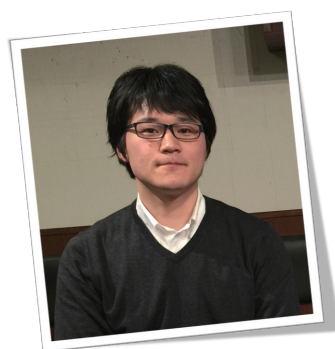
「四国の俺の村はダムの中だ！」

「俺は岩手県、日本のチベットだってよ。誰がそういう風にしたんだよ！？」

そう、「JAWS 団」の構成員は、戦後日本の開発主義の負の側面を背負う者たちだったのだ。彼らの問いかけを、戦後日本の開発主義を支えた「トラック野郎」たちは、どのように受け止めたのだろうか。そのリーダーの背景に原発があったことを、彼が原発の推進派と反対派を共に否定したことを、私たちはどのように捉えるべきなのだろう。

古い映画の話をしてしまったが、同種の問いかけは戦後日本のポピュラー文化のなかに、様々な存在する。それを本書で確かめていただければ幸いである。

（やまもと あきひろ 総合文化講師）



2015 年度前期

ラーニングアドバイザー活動報告

ラーニングアドバイザー（LA）による学習支援活動が始まり一年が過ぎようとしています。2015 年度前期は、前年度から倍の 6 名の大学院生が授業期間中の平日毎日ラーニング commons 内のアドバイザーデスクで学習相談に応じています。

今年度は、人数が増えただけでなく、活動範囲も大幅に広がりました。新たな取り組みとして、新入生関連行事に登壇しアドバイザーデスクの利用を呼びかけたり、図書館 facebook 内で連載「LA 通信」を開始し LA おすすめの図書館活用法などを紹介したりしています。さらに、6 月には、初のトークイベントを開催し、LA と学生等との交流を図りました。

閲覧室では、2015 年度から新たにラーニングアドバイザーを務める 4 名の大学院生の推薦図

書の展示「LA のおすすめ」を行っています。また、今後は、同じ 4 名によるパスファインダー（資料の探し方ガイド）の発行を予定しています。

ラーニングアドバイザーは、さまざまな活動でみなさんの学習をサポートしていますが、何よりもデスクでの相談をお待ちしています。先生には相談しにくい小さなことも、学生同士だったら話しやすいかもしれません*。どうぞお気軽に声をかけてください。

* ラーニングアドバイザーが応じられる相談（論文作成に関する一般的な質問）と応じられない相談（添削・翻訳等）があります。詳しくはチラシ・掲示物をご確認ください。

（飯島）

● LA トークイベント開催



6 月 1 日に開催された第 1 回ラーニングアドバイザートークイベント「España vista desde dentro スペイン、中から見るとこんな国！？」を担当しました。お話しした内容の中で強調したかった事は、私がスペインに在住していた頃、ネットワークを広げるためには、シンプルで最も勇気がいる「挨拶する＝自分から声を掛ける」ことの大切さです。当イベントに参加した学生も、この点が印象深かったそうで、とても嬉しかったです。

トークイベント関連資料→



● 展示：LA のおすすめ



《テーマ》

- ・お気に入りのエッセイに出あおう
 - ・学習に役立つ心理学
 - ・グローバルに活躍したい！
- 異文化コミュニケーションを知る。
- ・言語学にふれる

…2015 年度前期ラーニングアドバイザーのみなさんから…

《2014 年度より継続》

外国語学研究科博士課程文化交流専攻 1 年

4月8日に図書館の初年次教育にて、新しい学習サポート制度、ラーニングアドバイザー(LA)をご紹介します、そして相談できること・できないこと等についてお話ししました。その日は、入学したばかりの皆さんの姿を見て、自分の時のことを思い出しました。きっと大学で学んでいく中で、日々新しい発見、またもつと知りたいという好奇心を持つでしょう。いろいろなことに興味を持っている皆さんに、LAはお手伝いします。

 外国語学研究科修士課程英語学専攻 2 年

4月6日入学式・学術情報センターのオリエンテーションにLAとして登壇し、新入生にLA制度の告知と活用のおよびかけを行いました。あのような大勢の前で話す経験はほとんどなかったため、非常に緊張しましたが、何とかやりきることができたと思います。その甲斐あってか、LAが活動を開始してから1週間あまりで、一年生が数人、学習相談などでLAデスクに足を運んでくれました。ありきたりな話ではあったのですが、新入生の印象に残る話ができたとほっとしています。今年は新たに4人の方が新しくLAとして加わったことですし、他のLAの方とも協力して、今年も図書館を盛り上げていくお手伝いや利用者の皆さんのお手伝いができたらと思います。

オリエンテーションの様子

《2015 年度より新規》

外国語学研究科博士課程文化交流専攻 1 年



はじめまして。今学期から毎週火曜日にLAのお仕事をさせていただくことになりました、博士課程1年生の井上です。学部の3年次にファラー先生の詩のゼミを選択してから詩の面白さに目覚め、もっと勉強したいと思い大学院に進みました。みなさんより少し先輩ですので、勉強方法や学校生活についての相談など、お役に立てたら嬉しいです。LAを務めて約二ヵ月半が経ちましたが、学校生活や授業課題の作成についての相談を受けることがあり、とてもやりがいを感じています。ラーニングコモンズ内はわりと賑やかで相談しやすい雰囲気ですので、いつでもお気軽に声をかけてください。まだ慣れない面もあるかと思いますが、これからよろしくお願ひします。

外国語学研究科修士課程英語学専攻 2年

みなさん、こんにちは。

今学期から毎週金曜日にLAのお仕事をさせていただいております、修士課程2年の柳島です。現在は、アカー先生の指導の下で国際結婚に関する研究をしています。日本の大学及び、本学に関してまだ慣れてない面もたくさんありますが、これからよろしく願います。

ラーニングコモンズは、気持ちよく過ごせる場所です。

インテリアはすべて白と緑に統一され、とてもモダンでスタイリッシュな空間となっています。天井も高く、風通しもいいので落ち着いて自習が出来ます。学内のパソコンはもちろん、生活に役立つ雑誌もたくさん置かれていますので、ぜひ皆さんご利用ください。

外国語学研究科修士課程国際関係学専攻 2年



ラーニングアドバイザー火曜担当です。学習をしているとどうしてもつまずいてしまう時もあると思います。そんな時は気軽にLAのデスクへお越しください。学習方法や参考文献の探し方、レポートの形式などお答えします。

4月から勤務が始まり、学生の皆さんをサポートする側になりました。Learning Commonsは日当たりも申し分なく、騒音ありません。落ち着いて学習に集中できる場所なので、空き時間はぜひ図書館棟へおいでください。LAおすすめの選書コーナーでは心理学をテーマに選びました。自分で読んだ本の中から自信を持っておすすめできるものばかりを挙げたので、ぜひ手に取ってみてください。



外国語学研究科修士課程英語学専攻 1年

ラーニングアドバイザー水曜日担当の萩澤といいます。英語の意味論が専門です。

学部生のころを振り返ると、何かと自力で解決しようとしていた節があります。次第にその限界に気づき、使えるものは何でも活用するようになりました。図書館の資料や教授のオフィスアワーなど、せっかくの権利を放置しておいてはもったいない。今ではそう思っています。

さて最近その選択肢に新しく加わったのがラーニングアドバイザーです。大学では課題などで何かと文章を書く機会があります。それに取り組むときの相談相手としてご利用ください。お会いできるのを楽しみにしています。

図書館の開館時間に変更になりました

2015年4月より図書館の開館時間（授業期）が延長され、より利用しやすくなりました。

《ラーニングコモンズ》

8:40 → 8:00 開室 (40分早期開室)

《閲覧室》

21:10 → 21:20 閉館 (10分延長)

これにより利用できる時間は8:00（閲覧室8:40）～21:20となります。これまでは曜日によ

って開館時間が異なりましたが、今年度より月曜日から金曜日まで同じです。

（※ 試験期間中はこれまでどおり21:30まで開館しています。）



図書館日誌 2014年12月～2015年6月



2014年		4.8-4.15	初年次教育（水曜日6回、土曜日1回）
-1.31	展示「司書のおすすめD」第27回	4.16	館内整理日の開館時間17:00→12:00 （第二閲覧室は15:00）に変更
12.9-12.10	トライやるウィーク（1校4名受入）	4.21-5.29	2015年度第1回 Re ユース
12.10	選書ツアー茶話会&ビブリオバトル	4.22	JLP オリエンテーション 〈4月のゼミガイダンス 21回実施〉
2015年		5.1	Facebook 正式運用開始
1.5-2.6	2014年度第3回 Re ユース	5.13-	展示「LAのおすすめ」第2回
1.30	Newsletter No.12 発行	5.19	図書館ホームページリニューアル 〈5月のゼミガイダンス 15回実施〉
2.13	まちづくりスポット神戸見学	6.1	Newsletter No.14 発行
3.24-3.31	蔵書点検	-	第1回ラーニングアドバイザー トークイベント
4.1-5.23	展示「司書のおすすめD」第28回	6.1-7.25	展示「司書のおすすめD」第29回
4.4	英語教育学オリエンテーション	6.2-6.3	トライやるウィーク（1校1名受入） 〈6月のゼミガイダンス 7回実施〉
4.6	学部オリエンテーション		
-	大学院オリエンテーション		
-	Newsletter No.13 発行		
4.8	ラーニングコモンズ8:00開室		
-	授業期平日の閉館時間21:20に延長		

AD ALTIORA SEMPER 神戸市外国語大学学術情報センターだより

第42号 ISSN 0919-2336

「AD ALTIORA SEMPER」とはラテン語で「常により高きを求めて」という意味です

編集・発行：神戸市外国語大学学術情報センター

〒651-2187 神戸市西区学園東町9丁目1

TEL：078-794-8151 / FAX：078-797-2257

URL：http://www.kobe-cufs.ac.jp/library/

2015年6月30日発行 発行責任者：センター長 太田斎



神戸市外国語大学は
2016年に創立70周年
を迎えます。